

『口頭発表 8 ページ』投稿規程及び執筆要領

- 「口頭発表 8 ページ」として発表される原稿は、『秋期研究大会発表集録』に掲載されます。
- 原稿締切り 2026 年 7 月 20 日 (月)
 - ※締切りの日時を過ぎた原稿は受け付けできませんので、ご注意ください。
 - ※オンライン投稿で、著者名・所属入りの WORD ファイル、著者名・所属入りの PDF ファイル、著者名・所属無しの PDF ファイルの 3 点を提出して頂きます。詳細は下記に従ってください。
- ページ数 「口頭発表 8 ページ」A4 で 8 頁

I 投稿規程

1. **投稿資格** 投稿される原稿の著者（連名の場合は筆頭著者）は、日本数学教育学会の個人会員とする。
2. **投稿原稿** 投稿原稿は、算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究発表であり、日本語または英語で書かれた独創性のある未発表のものに限る。
3. **原稿の長さ** 投稿原稿の長さは、図表や資料等を含めて 8 頁（1 頁 22 字×2 段×42 行）で要約を含むものとする。
4. **原稿の作成** 原稿の作成については、II に定めた「執筆要領」による。
5. **原稿の投稿** 原稿の投稿に際しては、必ずホームページ掲載の「口頭発表 8 ページテンプレート (WORD)」を利用して、著者名・所属入りの WORD ファイル、著者名・所属入りの PDF ファイル、著者名・所属無しの PDF ファイルの 3 点を作成し、オンライン投稿する。送付の仕方に関する詳細については、III の「提出方法」の各項を参照のこと。
6. **原稿の審査等** 投稿原稿は、プログラム委員会が委嘱した二名の審査委員による審査を行う。審査は「発表の可否を判断する審査」と「論文作成に向けてのコメント」に分けて行う。「発表の可否を判断する審査」は研究大会での発表の可否を判断するものである。「論文作成に向けてのコメント」は口頭発表 8 ページの投稿原稿（希望者）に適用されるもので、学会誌論文にまで投稿原稿を質的に高めるためのアドバイスとする。「論文作成に向けてのコメント」を希望する者は、原稿投稿時に選択すること。なお、投稿者が「論文作成に向けてのコメント」を希望しない場合は行わず、その場合、その後の学会誌への推薦は行われない。

① 発表の可否を判断する審査

「発表の可否を判断する審査」は全ての投稿原稿について実施し、以下の 3 観点についての可否を確認する。

「発表の可否を判断する審査」の審査基準

1. (投稿規定を満たし、) 執筆要領に概ね従っているか。
2. 算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究発表で、研究の目的と結論が示されているか。
3. 研究倫理面（研究倫理に関わる諸点、並びに研究公正に関わる諸点）

「発表の可否を判断する審査」において、一人でも「否」のついたものについては、プログラム委員会で確認・判断する。（プログラム委員会の判断で、「口頭発表 4 ページに変更」「ポスター発表に変更」「否」となる場合がある）。

② 「論文作成に向けてのコメント」

口頭発表 8 ページ投稿者のうち、希望者に対して、以下の 5 観点から論文作成に向けたコメントを付し、学会誌論文にまで投稿原稿を質的に高めるためのアドバイスを行う。

「論文作成に向けてのコメント」の観点

- ア. 研究の目的や Research Question, 研究の独自性と意義
- イ. 研究の方法
- ウ. 研究上の重要な概念・用語や研究の枠組み
- エ. 研究の結果とその考察, 研究成果の意義
- オ. その他, 原稿の構成, 内容, 論旨等

なお, 審査の結果は 9 月上旬に論究部長名の文書で連絡する. 口頭発表 4 ページあるいはポスター発表に変更となった原稿は, 9 月 18 日 (金) 必着で事務局までオンライン投稿すること (著者名・所属入りの WORD ファイル, 著者名・所属入りの PDF ファイル, 著者名・所属無しの PDF ファイルの 3 点を送付する). (上の文書の通知から口頭発表 4 ページあるいはポスター発表の原稿提出までは, あまり日数がないので注意すること.)

7. 口頭発表の原稿執筆に関する留意事項

口頭発表の原稿は未発表・未投稿の論文形式とする. 過去に学会等で口頭発表したものに加除修正をして投稿することも可能であるが, その場合はその旨 (既発表であること及びその修正の内容) を「付記」に明記すること.

原稿執筆にあたっては, 以下のことを心がけたい. これらは『数学教育学論究』等の学会誌に投稿するためにも重要となる観点である.

- ア. テーマ: 算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究であること
- イ. 執筆要領: 投稿規程を満たし, 執筆要領に従って記述すること
- ウ. 研究の目的: 関連する先行研究を踏まえて, 研究の目的または Research Question, 研究の独自性と意義を明確に示すこと
- エ. 研究の方法: 研究の目的にふさわしい研究の方法や手続きであること
- オ. 研究上の重要な概念・用語や研究の枠組み: 研究上の重要な概念・用語や研究の枠組みを, 関連する先行研究を踏まえて明示すること
- カ. 研究の結果とその考察, 研究成果の意義: 研究の結果を明確に記述すること. 十分な考察を行い, 根拠に基づいて独自性・意義のある結論を導き出すこと. 論文全体の構成と論旨を整合的で一貫したものにすること
- キ. 研究公正: 日本数学教育学会「研究公正の推進に向けた取り組みについて」
https://www.sme.or.jp/about/research_integrity/ に準じた原稿であること

- 8. **著作権の帰属** 掲載された原稿の著作権は, 別に定めた「著作権規定」に基づき, 日本数学教育学会に属するものとする.
- 9. **再発表について** 秋期大会で口頭発表したものを他学会で再度発表することについては, 日本数学教育学会としては妨げない. 発表に際して, 日本数学教育学会秋期研究大会で既発表であることを記すことを求める.
- 10. **筆頭著者としての発表件数の制限** 筆頭著者としての発表は, プログラム委員会の決定により, 口頭発表 8 ページ, 口頭発表 4 ページ, ポスター発表を通して 1 件のみとする.
- 11. **異議の申し立て** 投稿者は, 投稿原稿の審査結果について異議がある場合, 学会事務局 (論究部宛) に対して文書で申し出ることができる. その取り扱いは論究部で決定する.

II 執筆要領

- 1. **原稿の様式** 必ずホームページ掲載の「口頭発表 8 ページテンプレート (WORD)」をダウンロードして使用すること. 原稿は A4 判の縦置き横書きとし, 22 字 (字送り 10.35p) 42 行 (字送り 16.8p) の 2 段組で作成する. 別紙の口頭発表 8 ページ様式, 「論文執筆における引用の仕方, 及び引用・参考文献の記載形式」, サンプル様式を参照して執筆する.
本文のフォントは, MS 明朝体 10.5 ポイント, 見出しは MS ゴシック体 10.5 ポイントとする. 句読点は「, 」と「. 」を用いる. 英字については Times New Roman を使う. 余白の長さは (上 30 mm, 下 18 mm, 左右 20 mm) とする. 書式を逸脱した原稿は掲載できなくなるので, 注意すること.
- 2. **標題の字数と書式** 標題は 40 字以内とする. 副題がある場合, 副題は 30 字以内とする. ま

- た、標題は MS ゴシック体 18 ポイント、副題は 14 ポイントとする。
3. **要約の作成** 要約は 460 字 (46 字 10 行) 以内とし、研究の目的、方法、及び、主な結果が分かるように簡潔・明瞭にまとめる。
 4. **キーワードの作成** キーワードは 3 つ以内とする。
 5. **文体** 日本語の文体は「である」調とし、常用漢字ならびに現代かなづかいを用いること。
 6. **見出し番号の付け方** 章、節、項、等は番号と標題をつけ、系統立てて配列する。見出しの番号は、次の順とする。
章の見出し番号 1, 2, ..., 節の見出し番号(1), (2), ..., 項の見出し番号①, ②, ...
 7. **表・図の番号** 表・図の番号は、それぞれ、表 1, 表 2, ..., 図 1, 図 2, ... のように通し番号をつけ、表や図の標題とともに入れる。表の通し番号と標題は表の上側に、図の通し番号と標題は図の下側に書くものとする。
 8. **引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式** 次の URL に定める「論文執筆における引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式」をよく確認し、それに従う。引用・参考文献のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
https://www.sme.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/jsme_reference_style_20230117.pdf
 9. **表・図等の扱い** 冊子体 (別注) 作成において、86%に縮小するので、縮小した後も十分読める大きさを確保する。また、論文データをつなげて発表集録を作成する際、書式が崩れる可能性があるため、フォントサイズ等、変更しないで下さい。表・図が 2 段組の一方の段に収まらない場合は、2 段分使用すること。
 10. **付記、謝辞及び注の記載の仕方** 付記、謝辞、注がある場合には、付記、謝辞、注、引用・参考文献の順にする。科研などの助成金への謝辞は、「謝辞」ではなく「付記」として掲載すること。実質的な謝辞がある場合には「付記」とは別立てとして「謝辞」を設けること。「注」の形式は特に問わないが、注の対応関係が分かるように記載すること。また、フォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
 11. **英文での原稿執筆** 以下の 4 点に留意の上、執筆する。
 - 1 日本語バージョンの執筆要領を原則とする。なお、本文の基本フォントは Times New Roman の 12 ポイントとする。
 - 2 2 段組は行わずに執筆する。なお、余白等は日本語バージョンに従う。また、1 頁の行数は日本語バージョンと同様に 42 行とする。
 - 3 要約は、日本語バージョンに従って、その部分を日本語で作成する。
 - 4 論文のタイトルについては日本語タイトルも作成の上、オンライン投稿システムに入力すること。
 12. **ページ番号** 原稿にはページ番号を付さないこと。
※ 書式の改変は一切認められない。上記 1~12 の要領に従っていない場合は、その時点で「否」と判定される場合があるので注意すること。

III 提出方法

1. 提出方法

必ず学会ホームページ掲載の「口頭発表 8 ページテンプレート (WORD)」テンプレートを利用して「著者名・所属入りの WORD ファイル」「著者名・所属入りの PDF ファイル」「著者名・所属無しの PDF ファイル」を各 1 部、3 つのファイルを作成し、参照ファイルとして投稿する。

2. 投稿原稿ファイル名

ファイル名は以下の通りとする。

著者名・所属入りの WORD ファイル：O8_名前.doc (または docx) (例：O8_数学太郎.docx)

著者名・所属入りの PDF ファイル：O8_名前 (有) .pdf (例：O8_数学太郎 (有) .pdf)

著者名・所属無しの PDF ファイル：O8_名前 (無) .pdf (例：O8_数学太郎 (無) .pdf)

3. 「論文作成に向けてのコメント」の希望有無の選択

「論文作成に向けてのコメント」を希望する者は、原稿投稿時に選択すること。なお、投稿者が

「論文作成に向けてのコメント」を希望しない場合は、その後の学会誌への推薦や学会賞（大学院生研究奨励部門）の推薦は行われない。

4. 希望分科会

発表を希望する分科会を、下記より1つ選択すること。

<分科会>

1. 数学教育学論，研究方法論
2. 教育課程（目標，評価）
3. 問題解決（数学的な考え方，指導法）
4. 教授・学習過程
5. 数学的モデル化
6. 数と計算・代数
7. 図形・幾何，測定
8. 関数
9. 確率・統計
10. 言語とコミュニケーション
11. 証明（説明，論証を含む）
12. テクノロジー
13. 数学教育史，数学史の教育活用
14. 教師教育
15. 国際協力
16. その他

5. 問合せ先 Eメールによる問合せは、下記にお願いします。（発表関連）

日本数学教育学会第59回秋期研究大会実行委員会 jsmeautumn2026@sme.or.jp
